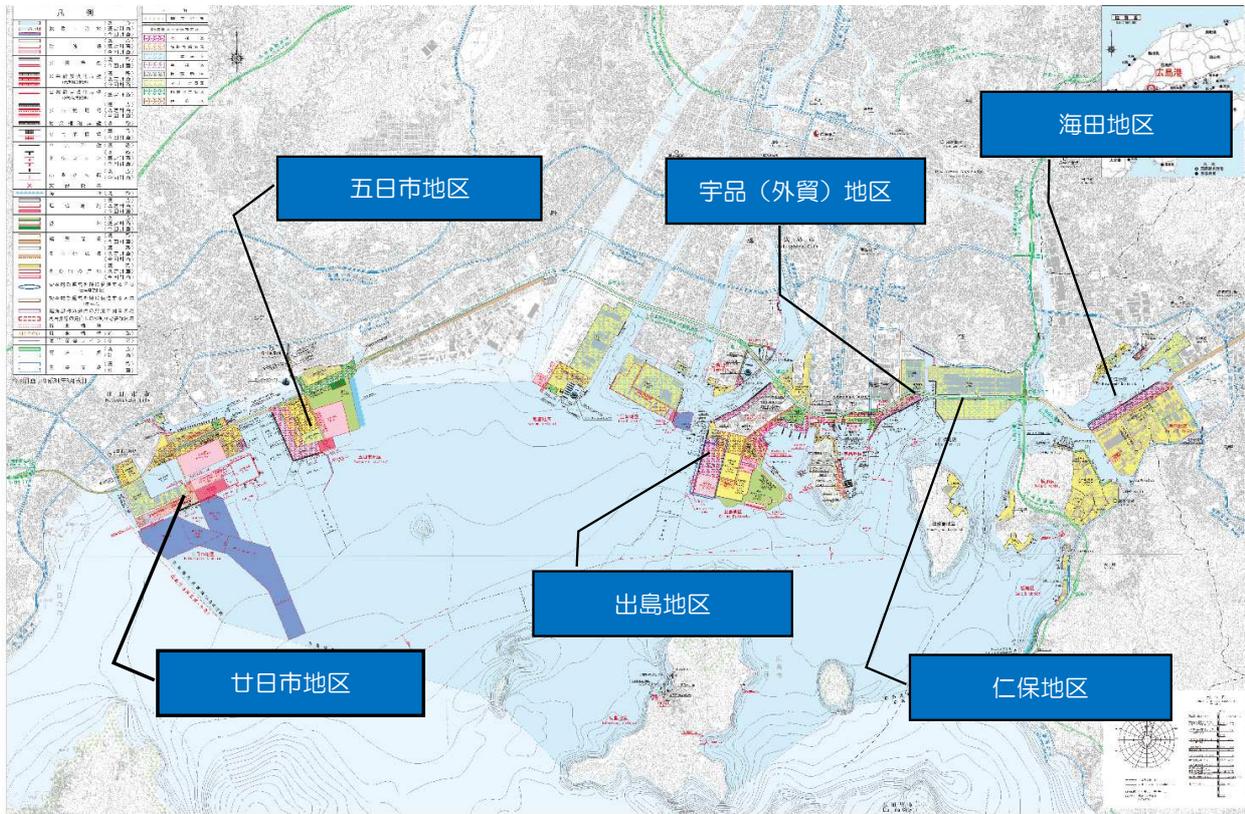


(6) 各地区の特色

広島港では、様々な貨物を効率良く取扱うため、それぞれの貨物に応じた岸壁、棧橋、物揚場、クレーン、上屋、倉庫などの施設・設備などが整備されている。



廿日市地区は、広島港最西部に位置し、広島港における輸入貨物の約6割を占めるLNG約80万トンを取り扱っており、近年、各種製造業のエネルギー源として注目されているLNGの一大輸入拠点となっている。また、木材の半製品や加工品等の取扱いも多い。



五日市地区には、3万DWT級の貨物船が入港できる水深12mの外貿岸壁等が整備されている。また、背後には、学校や住宅団地が立地し、市民の憩いの場となる公園・野鳥園などの整備が進められており、潤いのある豊かな港湾空間が創出されつつある。



出島地区

出島地区は、5万DWT級(4,000TEU積)の大型コンテナ船に対応した水深14m岸壁やガントリークレーン等を有する中四国最大のコンテナターミナルが整備され、中国や韓国、東南アジアをはじめとする各国との貿易拠点であり、中国地方の地域経済を支えている。
また、新たな土地造成も進んでいる。



宇品(外貿)地区

宇品(外貿)地区は、水深10m岸壁5バースが整備されており、一般機械やバルク貨物等を取り扱っている。
また、西端にある第5バースには不定期の大型旅客船が年間20隻以上寄港しており、世界的なクルーズ人口の増加やクルーズ客船受入環境充実の要請を踏まえ、広島海の玄関口としてクルーズターミナルが整備されている。



仁保地区

仁保地区は、背後にあるマツダ株式会社の主力工場群で生産された完成自動車を搬送するため、物揚場に一旦完成自動車がずらりと並べられ、巨大な自動車運搬船が次々と入港している。
これらの完成自動車は、アメリカやヨーロッパ、中国など、海外へ輸出されるとともに、国内主要港へも移出されている。



海田地区

海田地区は、5千DWT級(500TEU積)のコンテナ船に対応した広島港で最初のコンテナターミナルとして1988年に岸壁(-7.5m)2バースで竣工し、ガントリークレーン3基を有している。
東南アジアや韓国、台湾、中国へのダイレクト輸送や神戸港など国内港へのフィーダーサービスが行われている。